

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成 「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)夢を語り、主体的・協働的に課題を解決する児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りがもてる学校
----------	---------------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					達成値	達成値	達成度	評価			イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的な深い学びとなる授業づくりを通し、自ら考え学びあい、課題を解決する力を育成する	①算数科を中心とした深い学びに向かう授業改善 ・数学的な見方・考え方を育む授業の在り方 ・効果的なICT活用と対話の探究 ・OPPAによる学びの自覚(個・集団) ・繰り返し学習の徹底(算数検定、チャレンジタイム、個別指導) ②授業研究と授業観察による改善視点の共有化と進捗把握 ③生活科・総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の推進	①80% ②90% ③85%	①70.3% ②100% ③91%	①88% ②111% ③107%	①B ②A ③A		①目標を達成できなかった。(70.3%) 学力が定着していない児童の把握と手立てを共有し、学年での実施→振り返りが不十分であった。特に、「思考・表現・判断」の力が十分定着していない。 ②目標を達成することができた。(100%) 校内研修月1回以上実施。日々のICT活用についての実践交流。本校指導案において「ICTの効果的な活用」及び「ICTのメリット」について記述。 ③目標を達成することができた。(91%) 昨年度の活用内容をもとに、今年度の年間の見直しをもって実施。児童アンケートの結果から実態把握した上で、授業改善を行うことができた。 二中ブロックやプロジェクト型学習の研修会での学びを校内へ還元することができた。	①「問い」と単元のゴールを意識した授業改善。組織としての取組を明確化。「思考・判断・表現」の力を育成する具体的な手立て(思考させるための問いや表現の場の設定など)が必要。NRTや全国学力状況調査の結果や分析をもとに、明らかにした学年や学級の課題に応じて今後の対策を共有・実施→振り返りと見直し。 ②新しく導入したテレタッチの効果的な活用方法を共有する。全教職員がICT支援員と相談できる機会を設定する。 ③現段階での課題や校内で研修していく内容を焦点化し、より具体的な単元構想及び開発につなげていく。実施後、軌道修正。	○			・ICTを活用した授業に大変感心をした。 ・ICTと紙媒体ではどちらがより有効か、年齢に応じて、また、段階的に取組むことを期待する。 ・①の改善に取り組んでほしい。 ・到達度、習熟度、理解のスピードに個人差があり大変だと思うが、今後も継続した取組を行ってほしい。
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標達成のため、自ら挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく力を育成する	①学級・学年・児童会としての意識を高める集団づくり ・学校行事・児童会行事を活用した目標・手立ての設定と振り返り ・がんばりを認める場の設定 ・縦割り班活動の活用 ②「気持ちのよい学校」づくり ・児童会活動とリンクさせた生活目標の設定 ③「あいさつ」と「掃除」による明るくきれいな学校づくり	①90% ②90% ③90%	①100% ②82.3% ③97.3%	①111.1% ②91.4% ③108.1%	①A ②A ③B	①目標を達成できた。(100%) ・遠足や体育参観日などの行事ごと、縦割り班活動や全校の月目標の日々の活動を常に評価し、フィードバックすることで、頑張りを認める場をつくることができた。 ②目標を達成できなかった。(82.3%) 不登校児童は、半分に減少し、未然防止を図るよう連携しながら取り組んでいるが、目標達成には至らなかった。 ③目標を達成できた。 あいさつ(94.7%)そうじ(97.3%)職員全体で取り組むことを定期的に共有することで、児童への指導を徹底できた。一方で、児童主体で取り組めるようにしていくことが必要である。	①学校行事だけでなく、児童会行事や縦割り班活動を通して、児童の頑張りを認め、自己肯定感を高めていく。 ②不登校傾向の児童については、保護者連携を密にしたり、相談室での登校も継続的に行う。また、学年間で児童の交流をしたりエンカウンターに取り組んだりすることや、SCやSSWと連携を行うことで、未然防止に取り組む。 ③高学年児童が中心となり、挨拶や掃除の手本を示すことで、低・中学年の児童も習慣づくように、児童主体で進めていく。	○			・ICTを活用した授業に大変感心をした。 ・「楽しいと思える学校」になることが学校の最優先課題だと思うので、取組を進めてほしい。 ・コロナ禍でも積極的な活動をしていると感じる。 ・家庭内に問題を抱えている子供が、「周囲にそれをわかってきている人がいる」「話せる人がいる」という思いが持てるように見守り、支援していく必要がある。 ・パソコンの使用時間が長くなり、友達と遊ばなくなるなど、人との関わりが希薄になっているのではないかと心配する。	
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な生活を送るための基礎的実践力の育成	◎自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする態度を育成する	①基礎体力の向上(運動量の確保) ・体力テストの実施による課題の分析と指導の改善 ・体育の授業の工夫 ・外遊びの推奨と縦割り班遊びの実施 ②計画的・意図的な食育指導・給食指導の実施 ③手洗い・マスクの着用の徹底	①80% ②90% ③100%	①88.6% ②96.1% ③95.6%	①110% ②106% ③95%	①A ②A ③B	①目標を達成できた。(88.6%) 今年度体力テストを実施した5年生の結果を職員全体で共有することで、各学級の授業改善に生かせるようにすることができた。(縦割り班遊びは感染症対策のため未実施) ②目標を達成できた。(96.1%) 各学年の教科等と関連させ、食育指導を行うことができた。 ③目標を達成することができなかった。(95.6%) 保健委員会が放送での呼びかけを行ったり、各学級で掲示物による確認をしたり、主体的に取組を行うことができたが、徹底することが難しい。	①夏季休業中に実施した職員研修を生かし、苦手意識をもつ児童への手立てを各学級で行い、授業改善を図る。毎週水曜日のロング昼休みに縦割り班遊びを実施する。 ②全校でmeetを活用した食育指導を毎月1回(食育の日)計画・実施し、意欲を高めさせる。 ③手洗いチェッカーを使用した手洗い指導を全学級で計画・実施し、感染症対策への意欲を高める。各学級での取組が徹底できているか毎月1回フォームで職員アンケートで確認し、取組を徹底できるようにする。	○			・健康・体力がないと勉強にも身が入らないので取組を進めてほしい。 ・食習慣は一生、健康に影響があるので、関心をもたせることは大切である。 ・パソコンの長時間使用による体調不良が起こらないように指導してほしい。 ・縦割り班遊びでは、1年生と6年生の体格・体力差を考慮して活動してほしい。	
信頼される学校	保護者・地域とともに歩む学校の推進	◎不祥事防止の徹底 ◎地域とともにある学校の創造 ◎教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①自己との関わりで意識向上を図る研修の実施 ②保護者、地域、関係機関との連携 ・コミュニティスクールの推進 ・一校一貢献活動の推進 ③積極的な働き方改革への意識の向上 ・定時退校日の実施(毎週水曜日) ・教科担任制の導入	①100% ②100% ③100%	①100% ②33% ③100%	①100% ②33% ③100%	①A ②C ③A	①目標を達成できた。(100%) 不祥事防止研修の担当を学年で分担し行うことで、不祥事に対する意識向上につながっている。研修にロールプレイや意見交流を取り入れ自分事として捉えられるようにしている。 ②年度途中の為、目標未達成。(33%) 学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組が2学年できた。 ③目標を達成することができなかった。(4~9月100%) 今年度より時程を変更し、下校時刻を早め、放課後の時間確保。成績処理週間の設置。教科担任制の実施。成績処理に係るスケジュールの提示。課題・・・成績の時期には、勤務時間が多くなる傾向。	①研修を計画的に実施する。不祥事防止委員会など各種委員会においてヒヤリハット事案を出し合い、未然防止に努める。 ②学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組、学校林以外にも、老人会、コミセン、消防団などを活用した取組を計画。実施に向け、地域人材と事前に密に連携を取り、より効果的に実施。 ③成績処理について、見直しをもち、計画的にできるように、3学期末までのスケジュールを細かく提示。会議などの持ち方を検討。帰りやすい雰囲気づくり。	○			・コロナ禍で地域との交流も制限があったが、少しずつ元に戻りつつあるので、感染防止をしながら交流を続けてほしい。 ・働き過ぎの疲れた先生では、児童の目に魅力的に映らない。もっと余裕をもって指導に当たれるようになってほしい。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。